

# 平成18年度第1回「学生と部門委員との交流会」報告

FD部門・授業評価部門委員長 池田 勝彦

FD活動の中でも中心的な活動として「授業評価アンケート」がよく取り上げられ、実施されている大学も多いという報告もある。教育改善・授業改善をめざすFD活動で、組織的な活動をしているように見える「授業評価アンケート」は手が出しやすく、「実際」にFD活動しているような感覚を植えつける「うまい手法」である。つまり、アンケート用紙を作成し、教員に配布し、ある授業時に学生に配布・回収し、それを数値統計的な処理をして各教員に配布する。FD活動をしているという「自己満足」が成立させることができる手法であるといえる。

しかし、これを3年間以上続けると、形骸化し、儀式化することになる。つまり、ほとんど教員は「授業評価アンケート」の結果を無視し、ほとんど学生は「授業評価アンケート」による改善は期待しない。これでも一応取り組みとしては完結しているといえるが、FD活動の対極に位置する状況である。文部科学省による大学院および大学（2008年度の可能性大）の義務化については、FD活動の「義務化」についての困難さに関して、立教大学調査役の寺崎昌男氏が日本経済新聞（2007年3月19日発刊）で述べられている。その中に「義務化」によるFDの形骸化の危険性も述べられている。前述したように形骸化しやすいFD活動の取り組みとしては「授業評価アンケート」が最有力候補であろう。

さらに、「授業評価アンケート」に対して、貴重な授業時間を割いて行うという点も非難の対象になっている。これも、「授業評価アンケート」の結果に有用性が認められないという認識に帰結する「非難」であるように思う。アンケート結果に有用性を認めない背景には「遅刻・欠席をする学生、宿題をまじめにやらない学生に授業を評価する資格が有るか」（宇佐美寛著「大学授業の病理 FD批判」東信堂（2004）から引用）という意識をお持ちの先生方も少なくないと思われる。

このような状況下での「授業評価アンケート」を押し進めることが虚しくなるFDを担当されている先生方も多いと思う。このような状況を好転させるためにはどのような方策があるか？非常に単純な発想であるが、評価される教員側の意見のみで「授業評価アンケート」を判断していいのかという考えは容易に浮かんでくる。評価する側の学生（結果的には評価者であ

る学生に直接的または間接的であっても「教育」という形で戻ってくるはずだが）が「授業評価アンケート」について、どのように感じ・どのように思っているかを知ることは、アンケートを実施する上で非常に重要であるということが見えてくる。

前書きが非常に長くなったが、このような背景から、FD部門委員会では、学生に「授業評価アンケート」について、どのように感じ・どのように思っているかを伺う機会として、標記の交流会を2006年12月22日に開催した。教員側としては、FD部門・授業評価部門委員の先生方に出席していただいた。

学生側の参加者については、一般公募すべきところであるが、時間的な制約もあり、今回は授業支援SAをしていただいている学生に集まっていた。確かに、一般学生よりは講義・授業に関心があるというバイアスがかかっているが、そのバイアス分だけ前向きな意見を伺えるのではという期待もあった。

その交流会で頂いた意見について次に少し取り上げてみたいと思う。

## 授業評価アンケートの印象について

- 実施するのは1年次生のみとしたほうが良い。1年次生のとき授業を受講してアンケートに回答する。2・3年次生で再度同担任者の授業を受講して、それが改善されることを希望している。
- 面倒臭いので同じ内容を記入する。それでは全く意味がないと思う。授業を改善してほしいと思っている学生が自主的に記入すれば良い。
- 学期末に実施するという事は、もうすでにその授業を改善しようがない時期になっていると思う。学期中に何回も行うことは無理であっても2回ぐらい実施しても良いのではないかと。

## アンケート項目は適切か？

- 設問「5・6」で、(教室などの)利用が適切でしたかは設問が曖昧。
- 受講している人数が多いと自分ひとりぐらいという気持ち働き、面倒臭くなる。語学などは受講者数が限られているので、先生と授業を良くしていこうと思いまじめに取り組んでいる。

### アンケートに真面目に取り組んでいるか？

- 教員が毎回遅れてきたり、プリントを配布しパワーポイントを読み上げているだけでは、アンケートも適当に記入する。
- パワーポイントを使用するのは大変理解しやすいが、読み上げるだけで学生の顔を見ず、パソコンの画面ばかり確認し、ひとり話している教員では授業が適当と感じる。
- 授業開始時にアンケートを配布し、授業終了時に回収と言われても、記入している間、講義を聴けないので、適当に記入してしまう。
- 例えば授業後半に配布していただいても、授業後用事がある学生や早く帰りたい学生は適当に記入する。
- 授業終了時に実施しないと意味がないと思う。退出していく学生に問題があると思うが、その授業を評価したい学生は評価（記入）すると思う。

### どうすれば学生がアンケートを真面目に答えてくれるか？

- 自由記述に名前を記入させ、出席点に加算すると良いのではないかな。
- 筆跡で誰が記入したか分かるのではないかな。

### アンケート結果が授業に反映されていますか？

- 教員が、授業改善方法をフィードバックしたのにも関わらず、次年度受講しても何ら変わっていません。
- アンケートは集計しているだけで活かされていないと思われ、適当に記入してしまう。
- 年配の先生ほどアンケートの結果を取り入れない。

### フィードバックされていますか？

- シラバスに「今年はこちらを変えます」と教員から記入（フィードバック）してもらおうと分かりやすい。
- インフォメーションシステムもしくはCAESにコメントを載せている先生がおられるが、すべての結果や考えを掲出してほしい。
- 履修の際に前年度のアンケート結果とコメントを見たい。

### コメント集を見てどうですか？

- 結果に対するコメントにいつも見たいと思う教員が掲出されていない。他の教員である部分を改善するとのコメントが掲出されていたが、改善されたかどうかは翌年にならないとわからない。コメントを見て「あー、そうか」で終わってしまう。
- コメント集の存在を知らなかった。

### その他、アンケートについて要望などはありますか？

- 事前にアンケートの目的などを教えてもらえたら、真剣に答えるのではないかな。
- アンケートをやりっぱなしではなく、フィードバックしてほしい。
- アンケート結果についてはあまり発言されないが、自由記述については発言していただける教員もあり、このような状態では「自由記述」だけでも良いと思う。
- 自由記述用紙にアンケート項目を含んで作ったほうが良いと思う。
- アンケート用紙上部の学生所属欄は、プレ印刷されていると良いと思う。
- 学生が授業への不満や質問があった場合、これまではやむなく学部事務室に行っていたが、学生の不満を先生に伝えられる場所があれば良いと思う。

以上をお読みいただくことによって、学生が真面目に「授業評価アンケート」について考えているかがわかると思う。今後もこのような会を設けて、授業評価アンケートだけでなく、FD活動についても意見を聞くことが重要であると考えます。

さらに重要なことは、意見にも出ていたがこのような声をどのようにうまくFD活動にフィードバックをするかであると思う。

(化学生命工学部教授)

